諏訪市文化センター大規模改修　基本設計業務の進捗状況に関する市民向け説明会議事録要旨

開催日時・会場・参加人数

開催日時　　令和6年3月9日（土）13時30 分から 15時30 分

会　　場　　諏訪市文化センター　第 2 集会室

参加人数　　50人

基本設計業務の進捗状況について

■説明に対する質問

【発言者】

　耐震補強に関して施設の躯体の耐震は担保できているか。

【アロー設計】

　平成29年度に実施した耐震診断でもコンクリート強度を確かめている。その際にも設計上必要な強度の5割増し以上の結果が出ている。基礎部分は松杭を使用しており、同じ松杭を使用した片倉館は、昭和19年の南海地震の際に特に大きな被害もなかったことから、基礎についても問題ないと考えている。

【発言者】

　文化財であるがために耐震補強ができないことがあるのか。

【教育次長】

　保存活用計画でも、安全性の確保をすることは優先されるので、耐震補強は優先的に行い、その上でリニューアルしていく。

【発言者】

　昨年の説明会では、市民が納得した上で次に進めると言っていたが、既に実施設計の補助金の内示を受けているということは、必ず実施設計に進むということになるのではないか。

【教育次長】

　国や県から補助をもらうには、様々な調整を行って、期間を経て、内示をいただくことになる。補助金を断ることは、諏訪市には補助が付かなくなるかもしれないが、いつでもできる。ただし、補助金をもらうということは、申請してすぐにもらえるというものではない。よって、前年度より前へ進むという前提で、補助の内示をいただいておくということは大事な過程を踏んできていると思っている。

　また、今日の説明会は、まさに基本設計を進めている最中での説明ということで、皆さんからご意見をいただいて、3 月末までにしっかりしたものを作っていきたいというのが説明会の意義

でもある。先ほど申した通り、3 月に一旦固めた後、5 月頃に皆さんに報告を申し上げる会を設けるということを話しさせていただいた。従って、令和 6 年度の諏訪市一般会計当初予算にも計上をしていない。

【発言者】

　実施設計の段階で金額が増加した場合、市債が増えていくと思うがその返済はできるのか。

【企画部長】

　起債については、概算金額で 39 億円の場合、24 億円の起債を試算している。こちらの試算については、ただの借金ではなくて、借金をしたことによって国から交付税措置として借金の返済の一部を補填してくれる制度など、それを使える起債をなるべく取れるように見込んでいる。従って、この 24 億円についてはしっかり返済できるということで財源を組んでいる。ただ、総額が増えるという試算になってくると、議論がいるところである。今の 39 億円であれば、しっかり返済できるような担保として組んでいるが、事業費が肥大してしまったときには、立ち止まるということが必要になってくると考えている。

【発言者】

　反響板は設置しないのか。

【教育次長・副市長】

　反響板を設置した際の音響効果が、皆さんが期待をしているレベルまで効果を上げられるかというところを検討してきた。文化センターのホールの構造は四角い面積を斜めに使っているため、舞台が台形をしている。その台形のステージ上に、通常のホールのような反響板を上から箱を下ろしてきたとしても、舞台が台形であるがゆえに音が抜けてしまう可能性が極めて高いということが考えられる。反響板をつければ当然一定の効果が出るが、普通のホールと構造が違うがゆえに、大きなお金をかけて反響板を下ろしてきても残念ながら効果があまりないとするならば、そこを諦めた方が全体の予算額は集約できるという判断で、今日お示しをした改修案の内容になっている。

【発言者】

　この施設で、一番に改修しなければならない問題はホールだと思うがいかがか。

【教育次長】

　保存活用計画及び技術指導者からは、ホールの形状については意匠及び今の形をできる限り残すようにご指導をいただいた。したがって台形の形を変えられないということをご理解いただきたい。

【発言者】

　親子観劇席について、利用できる子どもの年齢層と、親子は何組分ぐらい入れるのか。

【教育次長】

　親子観劇室については、3 組から 4 組というスペースを予定している。利用できる年齢層は、検討組織の中でこれから検討していくことになる。

【発言者】

　親子観劇席の近くに授乳室等が同じ動線上にあると良いと思うが検討されたか。

【教育次長】

　授乳室の関係ですが、過日、諏訪市議会の議員の皆さんに説明した際にもそのご提案やご意見をいただいた。今後の設計のところで盛り込んでいけるようにしていきたい。

【発言者】

　吉田五十八氏の設計した建物の現状はどうなっているか。

【文化財係長】

　吉田五十八氏の現存している建物は全国でいくつかある。壊されてしまったものもあるが、今残っているものでは、例えば、成田山新勝寺、それからホールとか公共的な性格の建物ですと、奈良の大和文華館、東京の五島美術館、それから日本芸術院会館といった建物がある。五島美術館は近年、改修工事をしてリニューアルをし、外観はそのままで中の展示スペースなどを綺麗にリニューアルして活用している。

【発言者】

　現時点で、この建物を文化財として保護しながら改築するのか、それとも思い切って壊して新規に建替えた方がより効率的に長期間、価格も安くできるのではないか。

【教育次長】

　現在、国の登録有形文化財であり、保存活用をしていくという前提で進んでいる。新設とした場合、どのくらいのホールを造るのか、どんな機能を備えるのかによって大幅に金額が動くということがまず言える。加えて、この建物は登録有形文化財になっているため、すぐ壊せるものではない。つまり新しいものを造るとすれば、別の場所にまずは造らなければいけない。そうなると、土地が必要になり、その後文化庁と協議をして、この建物を壊すことになる。従って、土地を確保するというところに相当な金額かかると考えていて、新築をした場合でも、ある程度のお金が必要になる。

【発言者】

　若い人の意見がどの程度これに反映されているのか。例えば、小学生、中学生、高校生がこのような協議に参加する場を設けるのか。

【教育次長】

　7 月 30 日の説明会にはお子さん連れの保護者の方も数多く参加いただき、ご意見をいただいた。また、説明会に代わるものとして、明日から四つの条例館と文化センターで、本日ご説明した資料についてのご意見をいただくようにしている。資料をご覧いただいて、若い方にもご意見をいただくように考えている。

【教育長】

　施設を使ってもらうことはすごく大事だと考えている。例えば、すわっチャオは様々の方からご利用いただいているが、小中学生はなかなか使用が少ないという話もあった。運営委員会で

話し合って様々なイベントや、あるいは小中学生が集まる、そういう会議等も開きながら、活用が少しずつ広がっているところである。

　文化センターについても、例えば来年度、学校によっては音楽会やってみようとか、あるいは県全体の教員の集会ですとか、音楽関係の講習会等といったことに活用する計画もある。このようなことを通しながらどう活用していくのかということについても、検討組織の中に若い世代が入ってもらって、一緒に考えてまいりたいと考えている。

【発言者】

　ソフト事業については、設計と同時に進めることはできないのか。使う方の要望を抜きにして、器だけ一生懸命作っても、結局それに合わせたことしかできないのではないか。何が文化芸術活動の拠点なのかということを考えて、若者のための拠点にしなければ、文化センターという名が泣いてしまうような気がする。限られた講演会や会議だけではなくて、文化センターとしてもう一度原点に立ち返って考えていただきたい。

【教育次長】

　基本設計業務の予算をお認めいただけなかった 6 月議会を経て、8 月の臨時議会で予算をお認めいただいて、基本設計業務が今進んでいる。その次のステージとすれば、実施設計ということになるが、基本設計を確実に完了させて、市民の皆さんや議会の皆さんにご理解をいただけないと先に進めないため、実施設計に入ることができた際には、直ちに検討組織を立ち上げる計画である。この基本設計の中の利便性を向上させるための使い方とか、そういうものについては、ご提案をいただいた 223 件を、最大限生かした計画である。

【発言者】

　基本設計完了後には変更はできないということなのか。そうなると今後意見をもらってもこの基本設計のまま進んでいくということになるがいかがか。

【教育次長】

　7 ページで説明させていただいたとおり、基本設計の位置付けとしては概算の工事金額と全体的な改修内容というところにとどまるため、工事の細かい仕様などは実施設計に入っても変更可能である。ご意見をいただきながら、より良い施設にしていきたい。

【発言者】

　前回の説明会では工事費が 35 億と出ており、今回 4 億増えて 39 億円となっているが、最終的にはどれくらい増えるか不透明である。これだけ見ると一生懸命やっていいところを作ろうとすると、結局はまたオーバーすることになる。負担者側の意向も考慮していただきたい。概算で一人当たりどのぐらいの負担になるか算出していただきたい。

【企画部長】

　39 億円を単純に人口 4 万 7000 人で割ると、1 人当たり 8 万 2000 円になる。ただ、これは市民全員で割っている数字であり、子どもなどは加味されていない。また、市民税だけでなく企業の法人税なども計算すると、大体年収 75 億円程度から 80 億円ぐらいが税収としてある。その中で賄えると判断して、こういう数字を出しているということをご理解いただきたい。

【副市長】

財政の心配をしていただけるその視点は大変ありがたく思っている。市民の皆さんに納めていただく税金、また企業の皆さんや団体から納めていただいている税金というのは、それぞれの前年の所得、当年の所得等によって税額が算出されるため、諏訪市が文化センターを建てたから翌年、市民の皆さんの税金が上がるという仕組みにはなってないということをまずご理解いただきたい。

ちなみに今、諏訪市が市民の皆さんに提供している様々な公共事業、市民の皆さんからいただく税金を単純に市民の頭数で割ると、1 人頭年間で 16 万円の税をいただいて、それに対して 46 万円のサービスを提供しているというバランス感覚にあるということも、参考までに補足させていただきたい。

【発言者】

市民の税金が今回この件で増えるということはないが収入は一定額なので、トータル的に見たときには、この建物を改築することによって発生する費用は別の用途で使えたり減らしたりできるということになると思う。市民が本当に納得しているのか。

【副市長】

この文化センターに限らず、毎年諏訪市は様々な事業に取り組んでおり、この事業と同じような起債という借り入れを起こして、道路を直したり、橋を直したり、学校を直したりしている。これが果たして市民の皆さんに理解をいただけるかどうかということを、我々はルールに従って、諏訪市議会の中で、市民の代表である議員の皆さんにご説明をして、議員の皆さんに判断をいただいているということをご理解いただきたい。

【発言者】

3階の映写室は図面には書いていないが、どのような取り扱いになるのか。

【文化センター館長】

現在の 3 階の映写室には、以前は 16 ミリや 35ミリの映写機が置いてあったが、部品が古くなっているなどで廃止している状態にある。今回の基本設計ではお示ししていないが、今後実施設計の中で、プロジェクターの活用なども含めて検討していきたい。

■改修に関する意見

【発言者】

3事業（イベント広場、西口、文化センター）で、一体いくらになるのか、払っていかれるのかはそのうち分かるとは思うが、最初にできたら試算を示した方がよろしいのではないか。

【発言者】

反響板について、舞台の中に箱を作るということなので意匠は変わらないと思う。その辺ももう少し検討していただきたい。

【発言者】

他の施設でも親子観劇室に近いスペースがあるが、せっかく作っていただいた親子観劇室が空き部屋にならないように企画や計画を立てていただきたい。

【発言者】

今後の実施計画の中で、いろんな意見が出てくると思う。今日一番私が感じるのは、利用者の立場に立ってない。利用者がどうやったら使いやすいかなどが出ていない。今後の実施設計の中で利用者も入れて、話し合いをさせていただきたい。

【発言者】

親子観劇室と音響・照明室の場所が逆の方が使いやすいと思う。

【発言者】

現状の駐車場が非常に使いづらい。出入口が 1 ヶ所しかなく、その通路が非常に狭い。1，000人規模の駐車場が満員になるようなイベントになると、全て車が出るまでに 30 分以上かかってしまう。この敷地だけではなく、東洋バルブの跡地など周辺施設も含め、使いやすい駐車場の検討をお願いしたい。

【発言者】

2階平面図にエレベーターがあるが、お年寄りなどがエレベーターを使用して 2 階に上がったとして、ここからどのように客席に行くのか。廊下や集会室、さらに奥の廊下通って客席に入るような通路は考えられない。それであれば中庭に廊下を作ってエレベーターから直接入れるようにしないとバランスが悪い。

【発言者】

1 階のリハーサル室の前の廊下が細いので広げてほしい。

【発言者】

文化センターだけの市債の話ではなく、諏訪市が目指している旧東バル跡地イベントひろばと駅の西口の再開発が三位一体だと思う。それは観光面でも、諏訪市の防災の基地局という面でも、いろんな面でこの一帯が重要な拠点になっていくと思う。そういった場合に、市民にある程度この 3 拠点の総額の概要をまず示しながら、その一つの文化センターを先に着手しますという流れでないといけない。文化センターに先に手を付け、確定した金額も未定のまま、青天井になりそうな予算感の雰囲気がある。若い人が使っていくことになると思うので、5 月の基本設計の説明会の時でも良いので、大まかな 3 ヶ所の予想される総額と、その中で文化センターがいくらなのかというものを出していただけたらありがたい。

【発言者】

緞帳の撤去と吊物の更新という改修内容がここで初めて出てきたが、今まで講演会や7月の改修に関する市民向けの説明会の中では一言も出てこなかったし、計画にも何も入ってない。この緞帳については杉山先生と東山先生の作品で吉田先生の非常に思い入れのある緞帳だった。さらに設計の段階で吉田先生の非常に思い入れのある大事な舞台だった。これも講演会で二村先生が再三お話をされて感銘を受けたが、舞台は文化勲章受章者三人の共作であり、ホールの利用と活用は、緞帳の保存という意味がある。緞帳に空間表現や素材表現からみた価値があるということで、この文化センターの一つの象徴でもあるわけである。それを簡単に傷んでいるから取り外すと出ているが、これだけ大きい緞帳を保存するとなると大変な費用がかかると思う。もう少し工夫をして残して活用できるまでやったらいかがか。

もう一つ参考までに申し上げるが、東京の大手町にある日経ホールに東山魁夷先生の緞帳があった。ここが改築されたときに、全く作り替えてそのまま残しているというようなこともあるので、再検討して残す方向で考えていただきたい。もし駄目だったら、保存方法について慎重に検討していただき、バラバラに壊してしまうようなことは絶対に避けていただきたい。